



神戸大学外科学講座

外傷救急外科医育成プログラム
(Acute Care Surgeon)



兵庫県外傷救急外科(Acute Care Surgery)グループ

目次

ごあいさつ	1
外傷救急外科医が目指すべきこと	2
外傷救急外科医 育成 10 年プログラム	2
（例 1）外傷救急外科を含めた一般外科医を志す研修医向き	3
（例 2）外傷救急外科に興味はあるが、まず外傷診療全般を診たい研修医向き	3
育成 10 年プログラム終了時の到達目標	4
育成 10 年プログラム終了後のキャリアパス	4
グループ組織	5

ごあいさつ

外傷救急外科 (Acute Care Surgery) は 2005 年にアメリカで誕生した診療科で、外傷外科 (Trauma Surgery)・内因性救急外科 (Emergency Surgery)・外科的集中治療 (Surgical Critical Care) から成る分野です。本邦では 2013 年に Acute Care Surgery 学会が発足し、今後外科専門医のサブスペシャリティ領域になることを目指しています。(2019 年より Acute Care Surgery 認定外科医制度が開始)。

本邦における Acute Care Surgery の専門領域は「集中治療を要する重症外傷や急性腹症」と位置付けられ、その最も重要なエッセンスは「時間と生理学的徴候を意識した手術・集中治療」です。その一つの理想形が兵庫県災害医療センターなどの独立完結型救命救急センター (初療・手術・集中治療をセンター内でシームレスに完結できる施設) であり、重症患者の初療から手術までが迅速に実施可能となっています。このように Acute Care Surgery をリードする独立完結型救命救急センターですが、独立型であるが故に若手 Acute Care Surgeon 育成の基礎となる一般外科の研修が不足するという問題を内包しています。特に近年の医療技術の進歩により、Acute Care Surgeon が実施する緊急手術であっても可能であれば術後負担の軽い鏡視下手術を選択すべきで、その技術の習得と維持は極めて重要ですが、独立完結型救命救急センター単独での技術研修は困難です。

一方、地域医療にとっても Acute Care Surgery は重要ですが、重症外傷症例数の制限から独立完結型救命救急センターの設立は困難で、歴史的に地域基幹病院の外科医が Acute Care Surgery を担ってきました。しかし地域基幹病院の外科医の専門性が高まり臓器別診療体制を敷くに伴い、多発外傷や集中治療を要する重症外傷など、臓器横断的で本来 Acute Care Surgeon が行う外科的救急治療の質の担保が課題となっています。我が国には地域に適した Acute Care Surgery の教育システムおよびロールモデルは存在せず、地域における Acute Care Surgeon のあり方が問われています。

このような両者の課題を解決するために、神戸大学外科学講座が中心となり、兵庫県災害医療センター・兵庫県病院局の協力を得て、兵庫県外傷救急外科 (Acute Care Surgery) グループを立ち上げました。さらに外傷救急外科医 (Acute Care Surgeon) 育成プログラムを策定し、「重症外傷・ショックの外科治療スキルの修練期間」と「臓器別外科手術スキルの修練期間」を自由度を持って組み合わせるとともに、その後の多様なキャリアパスを将来の Acute Care Surgeon に明確に提示します。このプログラムにより、「地域基幹病院における Acute Care Surgeon のあり方」および「独立完結型救命救急センターにおける外科研修のあり方」の両者の課題を解決し、全国に向かってモデルケースを提示したいと考えています。兵庫県で Acute Care Surgery を実践したいと考えている外科医・救急医の方々の参加をお待ちしております (年 4 名程度、年齢不問)。

神戸大学大学院医学研究科外科学講座 チェアマン 福本 巧

兵庫県災害医療センター高度救命救急センター センター長 中山 伸一



外傷救急外科医が目指すべきこと

- 1 時間と生理学的徴候を意識した手術・集中治療ができること
- 2 救命に必要な過大侵襲手術をためらわず、合併症の克服を目指すこと
- 3 状況が許すなら、緊急手術であっても必要な低侵襲手術を行うこと
- 4 和を尊び、地域住民を守る外科医たること

外傷救急外科医 育成10年プログラム

2年間の初期研修終了後、**Step 1** から **Step 3** までの修練期間を設ける

Step 1 と **Step 2** は、一般消化器外科研修（3年）と重症救急外傷研修（2～3年）の期間どちらが先でもよい（次頁の例1と例2参照）

一般消化器外科研修にて、外科指導医のもとで外科専門医を取得できるレベルに到達する

重症救急外傷研修にて、救急科指導医のもとで重症外傷や重症救急疾患に対する初療・集中治療を含む全身管理を行えるようになる

Step 3 は、消化器外科専門研修（臓器別専門外科研修）で約3年（適宜延長可）

希望に応じて、消化器外科の他に心臓血管外科や呼吸器外科を選択しても構わない

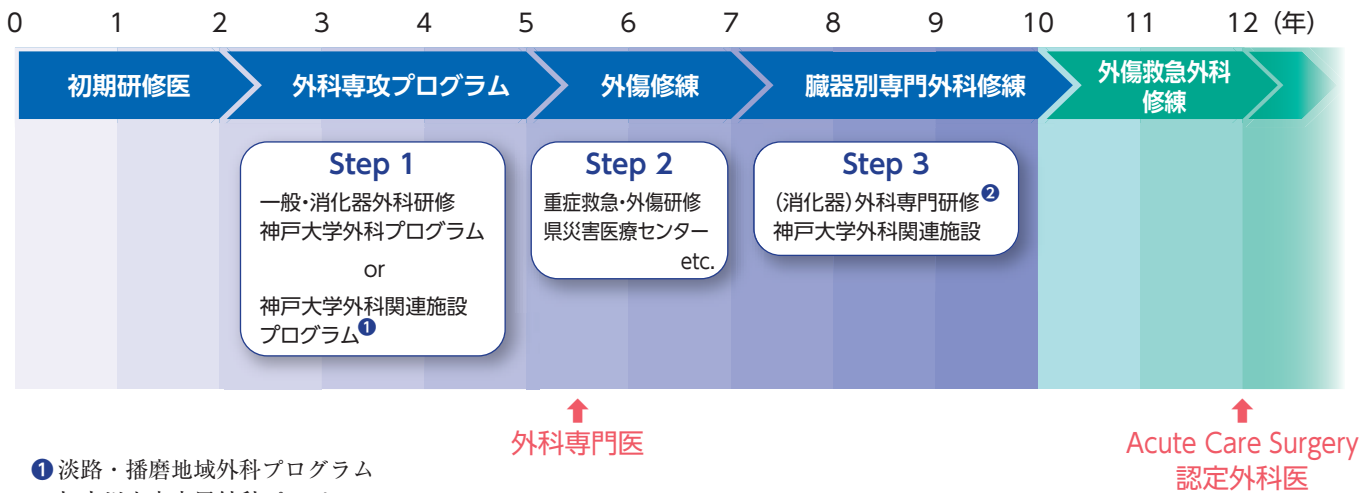
3外科すべてをローテートしてよいが、少なくとも一つは自分の得意な臓器別専門外科を作っておく
臓器別専門外科研修にて、自分で手術を組み立て執刀できるレベルを目指す

その後、外傷救急外科を専門として各施設の外科を支えていく

Step 2 研修終了後に神戸大学外科学講座同門会への入会が望ましい

卒後10年以内に大学院進学を希望する者は、Step 2 研修終了後に要相談

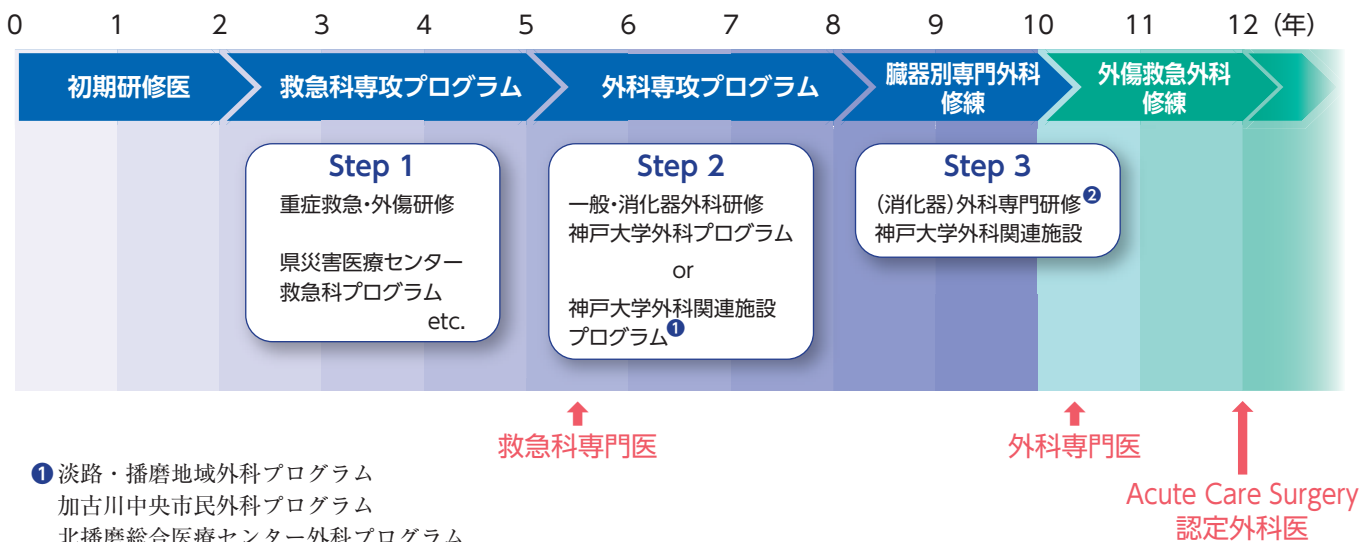
例1 外傷救急外科を含めた一般外科医を志す研修医向き



- ① 淡路・播磨地域外科プログラム
加古川中央市民外科プログラム
北播磨総合医療センター外科プログラム
高槻病院外科プログラム
北大阪ミックス施設群外科プログラム

② 希望に応じて、心臓血管外科や呼吸器外科専門研修も可

例2 外傷救急外科に興味はあるが、まず外傷診療全般を診たい研修医向き



- ① 淡路・播磨地域外科プログラム
加古川中央市民外科プログラム
北播磨総合医療センター外科プログラム
高槻病院外科プログラム
北大阪ミックス施設群外科プログラム

② 希望に応じて、心臓血管外科や呼吸器外科専門研修も可

育成10年プログラム終了時の到達目標

- 1 外傷（多発外傷含む）の初療・手術（鏡視下含む）・集中治療管理ができる
（外傷手術は高難度手術を含むので、まずはダメージコントロール手術）
- 2 急性腹症の初療・手術（腹腔鏡含む）・集中治療管理ができる
- 3 その他の重症救急患者の集中治療管理ができる
（ARDS, 低体温療法, ECMO 管理など）

育成10年プログラム終了後のキャリアパス

育成プログラム終了後は、本人と相談のうえ進路を決定します。関連病院で外傷救急外科医・一般外科医として働く医師は、資格として Acute Care Surgery 認定外科医を取得し、その後は指導者としての研鑽を積んでいくことになります。以下に示す関連病院には、認定外科医取得のための十分な症例数・手術数があり、スキルアップを図るには非常に良い環境が整っています。その他の資格（消化器外科専門医・救急科専門医など）については本人の希望があれば取得を支援いたします。今後、神戸大学外科学講座の兵庫県内の公的病院を中心とした他の関連病院にも外傷救急外科部門を増やしていく予定であり、働く環境と需要は十分にあります。

大学院進学タイミングについては、Step 2 研修終了後から随時相談に乗ります。その所属と研究テーマに関しては、代表の外科学講座チェアマンとの相談で決定します。神戸大学での臨床や基礎のみならず国内留学による学位取得も可能です。海外での臨床・研究については当グループ長と相談のうえ、身分・経済的支援が可能な兵庫県のキャリアアップ研修コースや、指導医が紹介できるその他のフェローシップの選択も可能です。帰国後のキャリアについても当グループが責任をもって相談に乗ります。

また、生涯学習として自分のできる手術・関与する手術を広げるために、関連病院での臓器別専門外科研修を推奨しており、それにより高難度の外傷手術や急性腹症手術の完遂を目標とします。このプログラムの途上もしくは終了後に外傷救急外科より臓器別専門外科をさらに極めたい医師はその道をいつでも選択可能です。逆に手術より救急・集中治療分野を極めたい医師は、救急医にキャリアチェンジして研鑽を積むことができます。重要なことは一人一人の外科医が輝けるキャリアを作ること、神戸大学外科学講座はベストな選択肢を呈示しサポートします。

グループ組織

■ 代表

福本 巧／神戸大学外科学講座・チェアマン

■ グループ長

中山 伸一／兵庫県災害医療センター・センター長

■ アドバイザー

掛地 吉弘／神戸大学外科学講座・食道胃腸外科学分野教授

眞庭 謙昌／神戸大学外科学講座・呼吸器外科学分野教授

岡田 健次／神戸大学外科学講座・心臓血管外科学分野教授

小谷 穰治／神戸大学外科系講座・災害救急医学分野教授

当麻 美樹／兵庫県立加古川医療センター・副院長

■ オーガナイザー

坂平 英樹／製鉄記念広畑病院外科・救急外科担当部長

■ 事務局

兵庫県病院局管理課

■ 連絡先担当者

兵庫県病院局管理課医師育成支援班 E-mail: byouinkanrika@pref.hyogo.lg.jp

坂平 英樹／製鉄記念広畑病院外科 E-mail: hidekisakahira@gmail.com

■ 事務局電話番号

078-362-3410（兵庫県病院局管理課）

兵庫県外傷救急外科 関連病院

1 兵庫県災害医療センター



◆ 連絡先担当者

松山 重成(救急部長)

E-mail: s-matsuyama@hemc.jp

石原 諭(診療部長)

- ・兵庫県随一の重症外傷・熱傷・ショック症例の集約施設
- ・高度救命救急センター、ドクターカーと消防防災ヘリ医師同乗型救急ヘリ運用
- ・ハイブリッドERを導入

2 製鉄記念広畑病院



◆ 連絡先担当者

坂平 英樹(救急外科担当部長)

E-mail: hidekisasakihira@gmail.com

酒井 哲也

(外科部長・消化器外科部長)

高岡 諒(救命救急センター長)

- ・2022年に兵庫県立姫路循環器病センターと合併予定
- ・救命救急センター、県立加古川医療センターのドクターヘリを共同運用
- ・兵庫県南西部の重症外傷集約化施設で、外傷救急外科の先進施設を目指す

3 兵庫県立加古川医療センター



◆ 連絡先担当者

川嶋 太郎

(外科消化器外科医長・救急科医長)

E-mail: kawashimataro@gmail.com

高瀬 至郎(外科消化器外科部長)

佐野 秀(救命救急センター長)

- ・救命救急センター、兵庫県南部のドクターヘリ基地病院
- ・兵庫県南部の重症外傷・熱傷の集約施設の一つ

4 兵庫県立淡路医療センター



◆ 連絡先担当者

服部 賢司(外科医長)

E-mail: qqtg6m99k@gmail.com

宮本 勝文(外科部長)

- ・淡路島地域唯一の高次医療機関であり、緊急手術症例は集約される
- ・地域救命救急センター、ドクターカー運用
- ・外傷救急外科と消化器一般外科の一体運用

5 兵庫県立丹波医療センター



◆ 連絡先担当者

武田 和也(救急科医長)

E-mail: kazu-takeda@hp.pref.hyogo.jp

大野 伯和(副院長・外科部長)

- ・丹波地域の基幹病院で準三次医療機関
- ・消化器一般外科が外科系救急を担う

